



国際会長 (IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)
“Let Your Light Shine”

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長 (AP) 利根川 恵子 (川越)

“Be the light for change”

「変革のための光となろう」

東日本区理事 (RD) 山田 公平 (宇都宮)

“Instil Confidence in our Youth”

「未来のために今、学びと気づきを!未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う!」

湘南・沖縄部部長 (DG) 黒川 勝 (金沢八景)

「初心に帰り、新たな船出を踏み出そう」

副題:「ワイズメンズクラブはYMCAとともに」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「楽しんで、できる範囲で、YMCAと地域に仕えよう」

会長 古田 和彦
副会長 秋元 美晴
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古賀 健一郎

監事 松島 美一
ブリテン 秋元 美晴
担当主事 立花 明美

<今月の聖句>

押川 幸男

昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

(マルコによる福音書 15 章 33-34, 39 節)

今月のひとこと

私にとってのアメリカ

秋元 美晴



子どものころ、「名犬ラッシー」というテレビドラマを毎週見ている。「♪ラッシーラッシー、ラッシーラッシーわんわんわん♪」で始まるテーマソングは今でもよく覚えている。主人公の男の子が毎週いろいろな出来事に遭遇

しながらも、コリー犬のラッシーとともに問題を解決していくという物語であった。私がびっくりしたのは、農家を営む少年のお父さんの背よりも高いような冷蔵庫や大きな車であった。アメリカという国はなんて裕福な国なのだろうと思ったものである。そして、ニューヨーク港に立つ自由の女神は右手に松明を高々と掲げる自由と民主主義の国の象徴であり、それを求めてくる人々は誰でも受け入れてくれる素晴らしい国だと思った。

しばらくして、1962年にキューバ危機があった。米ソ間の緊張が高まり、核戦争寸前にまで達した。老練なソビエト連邦の首相フルシチョフとアメリカの若き大統領ケネディのニュースをテレビが伝えていた。父が神経質になっている様子がわかり、とても怖かったことを思い出す。

その後、日本では安保闘争があり、アメリカではケネディ大統領の暗殺、ベトナム戦争と続き、アメリカという国は、一体どういう方向に進んで行くのであろうかと考えるようになった。友人は「アメリカは世界の平和を守る国なんだってさ」と吐き捨てるように言ったのを思い出す。

私は30代になって、夫とアメリカに行くようになった。アメリカに初めて行ったときは、ヨーロッパのような歴史もなく、普通の国だと思った。でも、世界の秩序を守るために頑張っている国らしいという思いはあった。

そして2025年、日本時間の3月1日未明、ウクライナのゼレンスキー大統領とトランプ大統領の会談を見て、私はアメリカという国は、もはや単なる強国にすぎず、自分の国の利

益のためにだけ動く国にすぎないということが分かった。嘗々と築いてきた自由民主主義の指導国としてのアメリカの威信はどこまで落ちるのであろうか。世界の人々は固唾をのんで見守っている。

＜聖句に寄せて＞

押川 幸男

今年は、3月5日(水)が灰の水曜日です。この日から受難節(四旬節)が始まります。イースター(復活祭)は、4月20日(日)です。

平日のお昼に、NHK放送の「カムカムエブリバディ」という番組があり、その中で時代劇の場面があり、そこで歌舞伎役者の方が、「暗闇でしか見えぬものがある。暗闇でしか聞こえぬ歌がある」という台詞を発するのですが、その台詞が不思議とずっと私の頭に残っていて、この聖書箇所を読んでいたときに、まさにこのことだと思いました。

イエスの十字架のそばに居合わせた、おそらくローマ人であろうこの百人隊長は、全地が暗くなった暗闇の中で、イエスを見つめ、イエスの叫びを聞いて、ついには信仰告白をしたのです。私たちがまた、人生の暗闇の中で、この百人隊長のようにイエスの招きの声を聞いたり、あるいは自分の苦しみや悩みを傍らで担ってくださっているイエスに気づくことがあるのではないのでしょうか。

受難節の期間、イエス・キリストの受難の意味を憶えつつ、一緒に歩んで参りましょう。

横浜 YMCA 会員大会-ピースフォーラム-報告

兼 第一例会報告

古賀 健一郎

2月11日(火・祝)10:00~12:30、横浜YMCA会員大会-ピースフォーラム-が湘南とつかYMCAで開催された。(維持会員・YMCA職員を含む)約200名の参加者があった。

【2月11日会員大会-ピースフォーラム-を実施する意味】

2月11日「建国記念の日」は、かつて「紀元節」として定められ、初代神武天皇が橿原の宮で即位したことを、日本のはじまりとする日とされている。しかし、その歴史的背景や戦前・戦中の国家神道との関わりから、軍国主義体制の形成に寄与し、侵略戦争の精神的基盤となった側面も指摘されている。

このため、横浜YMCAでは、2月11日を「建国を祝う日」ではなく、「平和を求める日」として位置づけ、毎年ピースフォーラム(会員大会)を開催している。

YMCAの理念である「すべての人の尊厳を大切にし、公正で平和な社会を築くことに基づき、戦争や暴力の歴史を振り返り、平和の実現に向けた対話と行動の機会とすることを目的としている。

また、会員大会という名称のもと、維持会員相互の親睦・交流・学びの場としての役割を果たすとともに、YMCAの活動やボランティア活動を広く知らせる機会にもなっている。

【オープニング 開会礼拝】

午前10時、開会。

司会を務めた会員事業委員会委員の鈴木茂さんが、フィリピの信徒への手紙1章9~10節を朗読し、その後、祈りを捧げられた。続いて、横浜YMCA理事長・工藤誠一氏が開会の挨拶を行い、「YMCAの理解を深め、学びと交流を通して、平和な社会を築くために私たちができることを共に考えていきましょう」と語られた。

【特別講演】

「絵本から学ぶ へいわってどんなこと」
講師：絵本作家・画家 浜田桂子氏

★ 浜田氏は、日本、中国、韓国の12名の絵本作家と連携して平和絵本シリーズを企画され、『へいわってどんなこと?』を3国共同刊行、香港版が「2020 Hong Kong Book Prize」を受賞。

★ 講演では、平和を考える絵本の制作に3年以上の歳月をかけ、日本、中国、韓国の絵本作家と意見を交わしながら実現した取り組みについて説明。過去の日本による武力侵略や植民地支配の歴史を直視し、連帯して平和絵本を作る意義について語り、参加者とともに平和について考える時間となった。

《講演内容》

浜田氏は、呼びかけに応じた中国・韓国の作家たちとともに絵本を作り上げる過程を、当時の写真を交えながら紹介。「加害と被害、双方の痛みを共有する努力を重ね、意見を述べ合いながら絵本を作るという、前代未聞の冒険だった」と振り返った。

試作段階の『へいわってどんなこと?』では「せんそうのひこうきがとんでこないこと」「ばくだんがふってこないこ

＜2025年2月例会実績＞

在籍者	出席者	出席率	B F
11名	メ 7名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 7名	64% (メーキャップ 1名を含む) 前月修正出席 率 %	今月分 切手 0g 現金 0円年 累計 切手 0g 現金 0円

＜3月の行事予定＞

CS・GreenP

日	曜	時間	行事内容	場所
4	火	19:00~	第104回Y-Y協議会	中央Y
8・9	土・日		東日本区次期会長・部役員研修会	東山荘
13	木	18:30~	横浜クラブ第一例会	中央Y
27	木	17:00~	横浜クラブ第二例会	Zoom

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

と」「いえやまちが はかいされないこと」との記述に対し、韓国の作家から「被害の視点だけで戦争を捉え、加害の認識が薄い」との指摘を受けたという。その後、ナレーターである子どもを主体的で能動的な存在に変更し、「せんそうをしない」「ばくだんなんか おとさない」「いえやまちを はかいしない」との表現に修正された。また、「だれもひとりぼっちにしない」という文案に対し、他の作家から「ひとりぼっちは、とても大事なこと」との指摘を受けた浜田氏は、自身にはなかった視点に気づかされたと同様、「戦争は、ひとりぼっちを許さず、個人の意見や立場を奪い、異なる考えを持つ者を排除し、『非国民』のレッテルを貼る。その中で、個人の意見や立ち位置は、決して失われてはならない」との思いに至り、この文言は削除された。

日・中・韓平和絵本プロジェクトは、その過程そのものが「平和をつくる」作業だったと浜田氏は語る。

現在も国内外で「いのちと平和を考えるワークショップ」を開催し、2020年には香港で読書会を実施。当時の社会情勢とも重なり、「いやなことは いやだって ひとりでも いけんが いえる」のページが共感を呼んだ。また、ロシアによるウクライナ侵攻後には、ウクライナの学生から子どもたちに希望を与える、とても大切な本」との感想が寄せられたという。ある時、国内の学校で「今まで生まれてきてよかったと思ったことは一度もなかった。でも、『へいわって ぼくが うまれて よかったって いうこと』という文を読んで、初めて生まれてきてよかったかもしれないと思った」と打ち明ける子どもと出会った。

浜田氏は講演の最後に、

「自分を大切に思える力こそが、平和をつくる支柱。戦争が起きている今だからこそ、『人間は、信頼し、共感しあえる』と希望を伝えたい。そのために、子どもの本は存在する」と語り、講演を締めくくった。

【広島ピースキャンプ報告】

2024年8月19日～21日、東戸塚小学校放課後キッズクラブ（4年生女子1名・5年生女子1名）とYMCAとつか学童クラブ（4年生女子6名・5年生女子1名、4年生男子3名・5年生男子4名）の子どもたちが広島を訪問し、平和記念館や原爆ドームを見学した。訪問後、子どもたちはそれぞれの視点から平和について考え、感じたことを報告した。その言葉の一つ一つから、平和への想いがしっかりと伝わってきた。

【ウクライナ・能登半島支援報告】

皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

《ウクライナ支援》

横浜YMCAは、横浜市をはじめ、さまざまな団体・個人の協力のもと、ウクライナから避難してきた人々への支援を行ってきた。特に、子どもやユースが成長の機会を失わないよう、皆さまからの募金を活用し、習い事や体験活動の支援を実施している。

現在、横浜に避難しているウクライナの人々は、終わりの見えない母国の状況に心を痛めるとともに、日本国内での避難生活の継続が難しくなることへの不安を抱えている。これは、公的支援の縮小が影響しており、生活基盤の確立がより困難になっているためである。

横浜YMCAは、今後もウクライナの人々に寄り添い、支援を継

続していく。

《能登半島支援》

2024年元日に発生した能登半島地震、さらには9月の豪雨による被害が明らかになるにつれ、「今、自分たちにできることを」という思いのもと、多くの方々や団体から横浜YMCAに支援の募金が寄せられた。

横浜YMCAでは、能登半島地震・豪雨被災地支援活動として、2024年5月から現在に至るまで、第1次から第7次にわたるボランティア派遣を行い、延べ52名（スタッフ、学生、聖光学院高等学校生および教員）が参加し、被災地の復興支援に尽力してきた。復興には長い時間がかかることを、これまでの被災地支援の経験から学んできた。

横浜YMCAは、「YMCAだからこそできる支援」を大切に、今後も被災地の復興に向けた支援活動を継続していく。

【横浜YMCA維持会員について】

会員事業委員会委員の横田孝久さんより、維持会員制度について案内があった。

YMCAの活動は、社会や地域の課題、ニーズ、願いを具体化するために、多くの人々の参加と協力によって支えられている。現在、YMCAは世界120の国と地域で活動を展開しており、横浜YMCAも神奈川県内でさまざまな事業や地域活動、社会貢献活動を実施し、誰もが公平に将来の夢や希望を描ける平和な社会の実現に向けて取り組んでいる。

維持会員は、YMCAの各種プログラムに参加してサービスを受けるプログラム会員とは異なり、横浜YMCAの使命と活動を支援する会員である。維持会費は、グローバルな人材育成、ボランティアの育成、子どもと家庭の支援、平和な社会の実現を目指した国際協力活動や地域活動に活用される。また、維持会員には毎月YMCA NEWSが届き、横浜YMCAの活動情報を得ることができる。さらに、会員相互の交流や学びを通じて創造性や豊かな感受性を育み、YMCAで行われる活動やイベントに参加する機会も得られる。多くの方々の参加をお待ちしている。

【閉会あいさつ】

最後に、佐竹博 横浜YMCA総主事が、2月11日に会員大会を実施する意義について述べるとともに、講師や大会の準備を担った会員事業委員会への感謝の言葉を伝えた。

その後、司会者と会衆が交互に「横浜YMCA—私たちの使命—」を交読し、会員大会—ピースフォーラム—の幕を閉じた。

【追記】

閉会后、講演者 浜田桂子さんの著書の絵本販売には多くの参加者が列をなし、サイン入りの絵本を手し、充実した表情で会場を後にする姿が見られた。

【最後に】

浜田桂子さんの絵本『平和ってどんなこと？』の最終ページに記された言葉

「へいわって ぼくが うまれて よかったって いうこと。
きみが うまれて よかったって いうこと。
そしてね、きみと ぼくは ともだちになれるってこと。」

この言葉が、私たち一人ひとりの心に深く刻まれますように。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

なお、横浜 YMCA 会員大会は『横浜クラブ 2 月例会』を兼ねて行われ、横浜クラブからは秋元、大高、古賀、佐竹、田口、立花、古田の各会員が会場に参加しました。



ピースフォーラム集合写真



浜田恵子氏(上)と浜田桂子氏のサイン

近況報告

佐竹 博



もうだいぶ前のことなので、詳細は定かではなく、記憶もあいまいなのですが、「怒っちゃダメ」というフレーズが職場ではやったことがありました。スタッフミーティングなどで、ちょっと私たちが意見を言うと上司はだんだん口調が激しくなり、声を荒げることがありました。ミーティング後に私たちは「怒っちゃだめだよ」「感情的にならなくても」などと言っていました。そのような時は、私の隣にいるスタッフが手元のノートの端に「怒っちゃダメ」と書き、ボルテージの上がる上司の言葉を

「早く怒りが静まりますように」と願いながら時を過ごしていました。今思えば、だいぶ生意気な物言いに加え、上司に対するリスペクトにも欠け、さらには言うほど実力も伴っていない、弊がっていた若造のことばでしたので恥ずかしい限りです。

ある時、そのメモ書きが「おこっちゃダメ」だったのです。そう見間違えたのかもしれませんが、今となってははっきりしませんが、私は思わず吹き出してしまいました。叱られたのは言うまでもなく、さらに高まったボルテージが冷めるまでそのミーティングはさらに続いてしまいました。それ以来、「怒っちゃダメ」は封印されましたが、いつしか自分にとってそのフレーズが大切になっていきました。私も頭に血が上りやすいところがあり、そのことでご迷惑をおかけしたり、困らせたりすることもあったと思います。いつしか熱くなりそうなとき、(大体それは自分に、思慮の浅さや検討不足があるときなのですが) 心の中で「怒っちゃダメ」とか、「ダメ、ダメ」などと思い浮かべるようになりました。

近況ですが、2022 年末に父が亡くなり、母が独居となり実家に毎月通うようになりました。最近、母が「エアコンがつかない」と連絡してきたことがあり、行くとエアコン本体のコンセントが抜かれていました。スイッチを入れたら、私のスマホに連絡が来るような、生活していることがわかる家電を導入しているのですが、ある時反応がないので電話してみると繋がらず、「倒れたか?」と思い行ってみると、固定電話も携帯もコンセントが抜いてありました。聞くと「節電と思って」抜いて、戻すのを忘れていたようです。でも冷蔵庫は無事、テレビも無事、一貫性がないことに「いよいよきたか」と動揺しました。

色々これからのことを考えたり、福祉的な支援の相談を始めたりとそんな日々です。一貫性のない行動は今も散発的に起きています。幸い実家は杉並なので、パッと行ける距離ですが、それでも心も身体も削られると思うときがあります。そんな時、「白髪は輝く冠、神に従う道に見いだされる。忍耐は力の強さに勝る(箴言 16 : 31-32)」「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、「内なる人」は日々新たにされていきます。(コリント II 4:16)」これらの聖書の言葉にハッとさせられ母のことを第一に考えることができるようになり、支えられています。そして母に向かい合うとき「ダメ・ダメ」と心の中でつぶやいています。

第二例会報告

大高 治

日時：2月27日(木) 19:00～19:50

場所：ZOOM

出席者：秋元、大高、古賀、立花、古田

協議・確認・検討事項

古田会長の挨拶を以って議事開始

1. 行事予定

2月27日(木) から5月22日(木) までの確認。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

3月4日(火) 19:00からの105回Y-Ys協議会は横浜クラブが担当。古田、立花の他、秋元、大高が出席する。

2. 協議・報告事項

(1) 次期クラブ役員の内

- ①古田会長は、斎藤次期会長にスケジュール等、会の大きな流れを説明。(7月;総会、スピーチコンテスト、8月;納涼会等々)
- ②第二例会ZOOMの時間を30~45分に短縮し、7月から第4水曜日、午前11時からを原則にする。
- ③斎藤次期会長、Y-Ys協議会9月2日、2026年6月6日に参加予定。
- ④役員構成 :副会長;古田、書記;古賀、会計;大高、ブリテン;秋元で大きな変更はないが、大高から年々能力の衰えを感じているので、早急に後任が必要との発言があった。
- ⑤26-27年度の会長について、恒例により斎藤次期会長が2年間続けて頂ければ問題ないが、秋元さんには次年度の会長のことを考えておいて頂きたい旨、会長の要望があった。

(2) 例会計画

- ①3/13日(木)卓話者:兵藤芳朗ワイズ(鎌倉・次期部長)、題;鎌倉と錦鯉の故郷・山古志
- ②4/10(木)インドのラグルさん;横浜YMCA日本語学校を卒業、(株)コンダテック勤務。日本語を習得後、日本の企業での仕事、生活などで話し合い。
- ③5/16・17(金・土)富士山一泊例会 4クラブ合同(つづき主催、鎌倉、つるみ、横浜)詳細は今後つめる。バス代が値上がりのため2万円を上回る費用に。

(3) ブリテン3月号編集計画 ;各位了解

- (4) 部主催の合同懇親会;4/26(土) 10:00~17:00
三浦グローバルエコビレッジで昼のバーベキュー;
古賀さん、古田さんが参加予定。

(5) その他

- ①諸献金;横浜クラブは満額献金が伝統だが、年初の会員数14名に対して退会者3名が出たので、10月からの在籍は11名。11名で全て献金項目に対応した。
(会計担当としては区費と同様、献金も上期、下期の人数での献金対応で評価されることを希望します)
- ②東日本区宇都宮大会;6月7日(土);各自対応して下さい。(秋元、大高、古賀、古田参加予定)
- ③アジア太平洋地域大会(熊本);各自対応して下さい。
- ④ワイズドットコムに秋元さんを加えて頂くよう古賀さんが手配する。

に、平和について一緒に考える時間を持ちました。

- 2月 4日-6日 日本語学科期末試験
- 2月 7日(金) 街頭募金
- 2月 8日(土) アフタースクール 新入生説明会
- 2月 11日(日) 会員大会ピースフォーラム
- 2月 12日-14日 国際情報ビジネス科 資格試験
- 2月 17日-23日 健康教育部 保護者見学会
- 2月 21日-23日 日台合同留学説明会
- 2月 27日(木) 常盤町清掃活動

3月例会プログラム

日時:3月13日(木) 18:30~20:00

場所:中央YMCA・オンライン

司会 齋藤宙也ワイズ

- 1. 開会点鐘および挨拶.....古田会長
- 2. ワイズソング・ワイズの信条.....全員
- 3. 今月の聖句.....押川ワイズ
- 4. ゲスト・ビジター紹介.....古田会長
- 5. 卓話
「鎌倉と錦鯉の故郷・山古志」
兵藤芳朗ワイズ(鎌倉・次期部長・元鎌倉市副市長)
- 6. ビジネス・報告.....古田会長
- 7. *Happy Birthday*
秋元美晴、古賀智子、佐竹順子、古田和彦
- 8. 閉会点鐘.....古田会長

例会報告:齋藤ワイズ

4月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
26	土	10:30	部合同懇親会	三浦Y



担当主事 立花 明美

2月11日には横浜YMCA会員ピースフォーラムが湘南とつかYMCAにて実施されました。「へいわってどんなこと」をテーマ

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 立花 明美にご連絡下さい。
 メール tachibana_akemi@yokohamaymca.org
 電話 045-661-0080

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★